

## 交通バリアフリーニュース



### 「バリアフリー教室」各地で開催

高知県高知市・香川県さぬき市・愛媛県八幡浜市

#### JR高知駅

6月17日(火)、四国運輸局は、本年2月にバリアフリー対応を含め高架化した新しいJR高知駅において「バリアフリー教室」を開催しました。

教室には高知市立江ノ口小学校4年生42名が参加。実際に車いすを利用されている方、視覚障害を持たれている方から日頃の体験談を聞いたり、講師の先生から車いす利用者・視覚障害者の介助の方法を学びました。



講師から車いす利用者の介助方法を学ぶ



2人1組で車いす利用者の介助を体験します

また、これらの体験では、四国旅客鉄道(株)の協力で、新しく設置された自動改札機の利用方法の説明や、実際に利用体験もしました。

介助体験では、車いすの操作やアイマスクを着用しての体験にとまどいながらも、声をかけながら一生懸命にペアのクラスメイトと助け合っていました。

このようなバリアフリー体験学習にマスコミの関心も高く、県内4テレビ局、2新聞社から取材がありました。



JR高知駅1階を車いすを押しながら移動します



大勢の報道陣が教室を取材



足下に注意しながら階段を上ります



階段を慎重に下っていきます



講師の先生とコミュニケーションを図ります



自動改札機に切符を投入します



意見交換会で質問や感想を発表します



児童の代表に修了証を授与

## 津田小学校

6月26日(木)、四国運輸局と香川運輸支局は、さぬき市立津田小学校において「バリアフリー教室・バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には津田小学校5年生38名が参加。大川自動車(株)の協力で、校内に低床、高床2種類のバス車両を持ち込み、整理券の取り方から運賃表の見方など、基本的なバスの乗り方について勉強しました。

また、バリアフリーに対応した低床バス車両の特徴を学習したり、低床バスに乗降する車いす利用者の介助の仕方を間近で見学しました。

障害者生活支援センターましみずの担当者から、視覚障害者の介助方法を教わったり、アイマスクを着用して実際にバスに乗降するなどの介助体験を行いました。

参加した児童は、講師の話の聞いたり、実際に介助体験をすることによって、相手を思いやり、相手の立場にたって行動することの大切さを学びました。



講師の先生からバスの乗り方について説明を受けます



実物のバスで行き先や車いす対応の表示を確認します



バスに乗り込み整理券を受け取ります



整理券と運賃を運賃箱へ入れます



ノンステップバスに車いす利用者が乗り込みます



アイマスクを着用してバスの乗降介助をします



講師の先生から視覚障害者の介助方法の説明を受けます



講師の先生によるバスの乗降介助



講師の先生の自家用車で車いす積み降ろしを見学します



意見交換会の後、修了証の授与

## 八幡浜港

7月7日(月)、四国運輸局は、八幡浜港において「バリアフリー教室」を開催しました。教室には八幡浜市立松蔭小学校5年生44名が参加。最初に八幡浜観光センターで講師の先生から視覚障害者の介助方法の説明を受けたあと、アイマスクを使用して実際に介助体験を行いました。



講師の先生から視覚障害者の介助方法の説明を受けています



2人1組で介助体験中



真剣なまなざしで介助体験に取り組めます



階段の下りの介助は上り以上に注意が必要です

その後、九四オレンジフェリー（株）の協力で、本年4月に就航した「おれんじ四国」の船内を使用した車いす利用者の介助体験を行いました。

また、おれんじ四国に設置されているバリアフリー対応エスカレーターでは、乗組員の操作による車いす利用者の乗降を見学しました。

体験後の意見交換会では、講師の先生からの実体験をはじめとしたさまざまな話を聞いたり、児童から講師の先生へたくさんの質問が出るなど、大変有意義な時間となりました。

参加した児童は「困っている人がいれば声をかけたい」と、「心のバリアフリー」への理解を深めていました。



講師の先生を先頭に2人1組となって船内を車いすで移動します



船内通路での介助はゆっくりと行います



バリアフリー対応のエスカレーターで降りています



意見交換会の場で真剣に講師の話聞いています

## 消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今回は、さまざまなボランティア活動を行い、現在はNPO法人新町川を守る会の理事長を務める傍ら、市民や行政からの要請に応え、日夜奮闘されている中村英雄さんにお話を伺いました。

インタビュー実施日:H20.7.11(金)



NPO法人新町川を守る会  
理事長 中村 英雄 さん

## ~できる人が、できる時に、できることを~



船上から見える眉山



今回乗船した遊覧船



いつごろから?

平成元年に水際公園ができ、その頃からいろいろなイベントを始めました。そのような時、脇に流れる新町川はゴミが多くて非常に汚れていることに気づき、それから清掃活動を行うようになりました。現在月に2回程行っています。

同じ頃からはじめた「ひょうたん島クルーズ」ですが、当初は週2回で年間100人程度の乗客でした。ここ7年くらいは毎日運航していて、今年は年間4万人にのぼりそうな勢いです。

夏期は日中を避けて17時からの運航ですが、阿波踊り期間中は朝10時から22時まで運航します。それでもお客さんがたくさん並んで途切れません。



車いす利用者等の乗船は?

車いす利用者の乗船は多く、多い日で1日10名、平均しても1日1名はあります。先日看護学校の生徒が乗船しました。

乗船口にある車いす昇降機は4,5年前に徳島市が設置してくれました。おかげで車いすのまま乗船できます。このように車いすのまま乗船口まで下りることができる川は全国的にも珍しいと思います。

**誰もが乗れること**が大事です。

清掃をしてきて、川がきれいになってくると、市民が川に関心を持ち出しました。すると、行政がいろいろと応援してくれるようになりました。護岸の整備もその1つです。

また、全国各地から見学に来るようになり、注目されるようになりました。鳥取県には「ひょうたん島」なるものがあるそうで、「ひょうたん島サミット」をしませんかと言われていました。

さらに、来年か再来年には「水の郷サミット」が徳島市で開催されますし、「川での福祉と教育」も開催される予定です。

こうした経験から、これからは「川からの土地再生」ができるのではないかと思います。市民が川に関心を持って船に乗れば県外客も船に乗り、そうすれば地域全体がよくなると思っています。皆様のご協力よろしくをお願いします。



「ひょうたん島」わかりますか?



川の大切さを訴える中村さん

## ひょうたん島クルーズとは?

新町川と助任川に囲まれた中心部の中洲は、上から見るとその形が「ひょうたん」のように見えることから「ひょうたん島」と呼ばれています。

この1周6kmある「ひょうたん島」を遊覧船で周遊する船旅を言います。

運航日:原則毎日 運航時間:午後1時~4時(7,8月は午後5時~8時)

保険代として100円が必要 お問い合わせ 新町川を守る会 TEL088-655-1201

# 必見！！バリアフリー化が進んでいます



250kgまで積載可能



護岸と橋の境目



浮き桟橋と橋の境目



船舶乗船口



新町川の向こうに眉山が見える絶好のポイント

インタビューの中にも出てきました車いす等昇降機ですが、公園と乗船口の段差が約1mあるので、利用者にとってはかなり便利な装置だと思います。

また、車いす利用者だけでなくお年寄りや足の不自由な方なども使用できます。

### インタビュー後記

インタビュー当日は中村さんを訪ねてくる人が非常に多く、多忙さがうかがえました。そんな多忙中、運航しながらのインタビューとなってしまう、ご迷惑をおかけしましたが、中村さんは終始笑顔で、紙面に書ききれないほどさまざまなお話をすることができました。

車いす利用者等の乗船が多いということは、誰もが乗れることの証明であり、乗客が増えているのは「よかった。また乗りに来よう。」というピーターも多くなっているからだと思われます。まだ乗ったことのない方はぜひ足を運んでほしいと思います。

## 交通消費者行政レポート(19年度版)発行しました

平成19度中の交通消費者行政の取り組みをまとめた「交通消費者行政レポート」を5月に発行しました。

レポートでは、

交通アドバイザー会議

行政相談窓口での相談件数

交通バリアフリーの現状

四国運輸局が取り組んでいるバリアフリー化施策

等の概要を紹介しています。

レポートの内容のうち、バリアフリーに関することは、本紙各号で照会していますので、ここでは、「行政相談」について、一部紹介します。

なお、レポート全文は、運輸局ホームページに掲載しています。



<http://www.skt.mlit.go.jp/soshiki/koutsuu/report.html>

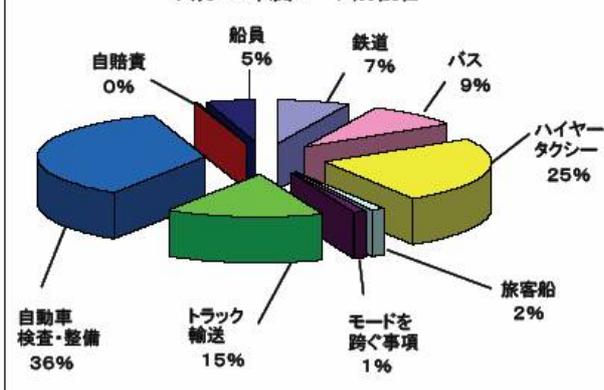
### 行政相談

運輸局・運輸支局等に設置している行政相談窓口で寄せられる意見・要望・苦情等を処理するとともに、国民の権利利益の保護と行政運営の改善を行っています。

### 行政相談の傾向

モード別の行政相談件数割合は下図のとおりであり、相談内容は、意見・要望で65%を占めています。

平成19年度モード別割合



### バスに関する相談例

#### <相談内容>

バスが走行車線を走行中の自分の前に無理な割り込みをしてきた。危険だと思い、追い越し車線に車線変更したところ幅寄せをされた。今回は事故にならなかったからよいが何かあれば大変なことになる。

#### <措置>

事業者を確認したところ、乗務員から少し遅れ気味であったため、いつもより速度が出ていた事実が確認できたので、乗務員には厳しく指導し、全体集会時に安全運転の徹底を指導したと改善の報告がありました。

### 旅客船に関する相談例

#### <相談内容>

旅行業者のツアーで航行中の操舵室の見学があったが、一般の人が入室していいのかわからない。事業者の安全に対する考え方に疑問を持つとともに航行に不安を感じた。

#### <措置>

今回のツアーは、多くの人が船への親しみを持ち、船旅を楽しんでいただくために企画したもので、航行上問題のない時間帯に安全を十分に配慮して行っている旨の報告が事業者からありました。

相談者には、事業者からの報告内容と、操舵室等の立入禁止区域は、船長が航行の安全上支障がないと判断すれば入室が可能なことを説明し、ご理解いただきました。

## 高松駅前バス乗場の案内標識が新しくなりました

JR高松駅前のバス乗場の案内表示がわかりにくいなどの指摘があったため、(社)香川県バス協会が「高松駅前バス乗場の案内標識検討会」を開き、標識のサイズや色などを検討し、20年4月、新しい案内標識に変わりました。

検討会では、バス会社、「ぐるっと高松」公共交通を育てる会、高松市、四国運輸局、香川運輸支局が出席し、案内の表記は、日本語・英語・ハングルとし、紺地に白抜き文字で作成することなどが決まりました。

当局が提案した字体、多言語表記が反映されました。



改善前



改善後

### 【編集後記】

徳島、愛媛と二支局でバリアフリー教室の業務に携わってきましたが、これまでは本局のお手伝い的な役割でした。

今回、本局で企画立案から関係者との調整や実施まですることになりましたが、行動力旺盛な(?)部長の下で、課員3名で頑張ります。バリアフリー教室でお邪魔した時は、よろしく願います。

(消費者行政課 黒河)

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せ下さい。



〒760-0064

高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。

このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。

四国運輸局ホームページもご覧下さい

<http://www.skt.mlit.go.jp/>